

## 日本教育心理学会 論文作成の手引き

本手引きは『教育心理学研究』執筆要項を補い、原稿記述の詳細について説明したものです。『教育心理学研究』のほか、『教育心理学年報』および『日本教育心理学会総会発表論文集』の論文執筆の際にも参照してください。

赤字部分はアメリカ心理学会の2020年発行の *Publication Manual* (7th ed.) をもとに改定した箇所です。

### 1. 論文題目

- (1) 副題がある場合は、副題の前後を2倍ダッシュ（——）ではさむ。
- (2) 題目の英訳は、主要語（From, With など、4文字以上の前置詞を含む）の頭文字を大文字とする。

### 2. 見出し

- (1) 見出しは、ゴシック体とする（太字にはしない）。
- (2) 見出しには、番号は付けない。
- (3) 中央大見出しは、行の中央におき、その上下は1行あける。
- (4) 横大見出しは、行をあけず左端から書き、本文は改行して始める。
- (5) 横小見出しは、行をあけず左端から全角1字あけて書き、本文は全角1字あけて書く。

### 3. 本文

- (1) 本文は、日本語論文の場合、A4版縦置き・横書きで、左右の余白を5.5cm以上とし、1枚の字数は24字×45行（刷り上がり2段組みの1段にあたる）とする。
- (2) 各ページにページ番号と行番号を記載する。行番号はページごとに1から振り直し、すべての行に付ける。
- (3) 本文には論文題目や要約を含めない。
- (4) 文字フォントは明朝体とする。
- (5) 句読点は「,」と「。」を用いる。
- (6) 統計量を表す記号はイタリック体とする。
- (7) 強調のための太字や下線は用いない。
- (8) 脚注がある場合には、ページごとには入れず、引用文献の後に、ページを変えてまとめて入れる。
- (9) Appendixがある場合は、引用文献の後に、ページを変えて入れる。

#### 4. Table と Figure

- (1) Table と Figure 内の文字や数値は、本文のフォントとあわせて明朝体とする。
- (2) Table は、Table の上に Table 番号と Table の題を書く。番号の後は改行し、番号、題とも左寄せとする。題の最後に句点 (。) は付けない。また、Table 番号のみ、Table 1 のように太字とする。
- (3) Figure は、Figure の上に Figure 番号と Figure の題を書く。番号の後は改行し、番号、題とも左寄せとする。題の最後に句点 (。) は付けない。また、Figure 番号のみ、Figure 1 のように太字とする。
- (4) Table 中の見出しと数値は中央そろえとし、Table の左端の項目は左そろえとする。
- (5) Table 中の数字が、比率や相関係数のように（絶対値が）1 を超える値をとらないものである場合、1 の位の 0 を付けずに、小数点と小数点以下の数字のみを書く。
- (6) Table の注は Table の下に左寄せでおき、説明文の終わりには句点 (。) を付ける。ただし、説明が文でなく、短い語句のときは句点は付けない。
- (7) Table 全体に関する注は、Table 中には符号を付けず、「注）」（複数の場合は番号も付ける）と書いてその後に書く。
- (8) Table 中の特定の部分に関する注は、Table 中の該当箇所に符号を上付きのアルファベット小文字で付け、その符号ごとに説明する。
- (9) Table や Figure で統計的な有意水準を示すには、数値の右肩に上付きの「\*」や「\*\*」を付け、Table の下に左寄せで、「\* $p < .05$  \*\* $p < .01$ 」のようにコンマやピリオドを入れず、全角 1 文字あけて並べる。
- (10) Table や Figure は、不要な色や線は除去して、印刷に適したシンプルなものにする。
- (11) Figure の注は、上記 (5)～(7) の Table の注に準じる。

#### 5. 結果の表記

- (1) 信頼区間は、95%CI[0.3, 1.2]のように表記する。

#### 6. 文献の引用

- (1) 著者が 2 名の場合は、引用するたびに両著者名を書く。著者が 3 名以上の場合、初出のときから第 1 著者の名前と「他」（英語文献の場合は“et al.”）とする。ただし、省略表記することによって、異なる著者の組が刊行年を含めても同じ表記になる場合は、第 1 著者から順に区別をつけるのに必要な数の著者名を書く。
- (2) 翻訳書を引用する場合は、原著者名と原著書の刊行年、および翻訳書の翻訳者名と

その刊行年を示す。文章中では「Loftus & Loftus (1976 大村訳 1980) によれば…」とし、かっこ内に表示する場合には「…とされている (Loftus & Loftus, 1976 大村訳 1980)。」のように記載する。

- (3) 同一箇所でも複数の文献を引用するときは、文末のかっこ内に引用文献と同じ順番で並べ、セミコロンで区切る。著者名と刊行年はコンマで区切り「…ことが示された (鈴木・上林, 2014; 山川, 2010)。」のように記載する。

## 7. 引用文献

- (1) 引用文献欄の見出しは、論文の種別によらず、「引用文献」とし、中央大見出しとする。
- (2) 引用文献の2行目以降は、全角1字分下げる。
- (3) 引用文献の副題は、日本語文献の場合は1倍ダッシュ(一)の後に続け、副題の後にはダッシュをつけない。外国語文献の場合は半角のコロンの後に半角あけて続ける。
- (4) 句読点は半角のコンマと半角のピリオドとし、最後の句読点を除き、句読点の後は半角あける。
- (5) かっこは半角とし、右かっこの後に句読点を付ける場合以外は、かっこの前後を半角あける。
- (6) 印刷中の論文は、刊行年の箇所に「(印刷中)」と明記し、投稿中の論文は、末尾に「(投稿中)」と明記する。投稿中の論文については投稿先の雑誌名は書かない。
- (7) 日本語文献の著者名の姓と名の間は、姓または名(両方の場合を含む)が1文字である場合に限り、半角あける。
- (8) 日本語文献が共著の場合、各著者名の間には全角のナカグロ(・)を入れる。
- (9) 特に以下の点には留意すること。
- a) 日本語文献と外国語文献をまとめて、著者のアルファベット順に並べる。
  - b) 引用文献の発行年の記載は、著者名の後、半角スペース、半角左かっこ、年、半角右かっこ、半角ピリオドとする。
  - c) 外国語の論文題目は、主題および副題の最初の文字のみ大文字とし、イタリックにはしない。
  - d) 外国語の雑誌名は、主要語の頭文字を大文字とし、イタリックにする。
  - e) 外国語の書籍題目は、主題および副題の最初の文字のみ大文字とし、イタリックにする。
  - f) 逐次刊行物の巻数は、イタリック体とする。
  - g) 逐次刊行物の巻の中に号がある場合、号は巻の後にかっこに入れ、イタリック体にしない。ページ範囲は、巻を通したページ番号が入っている場合は、巻の通しペ

ージ番号を記載する。

h) 翻訳書には原著者名, 原著書名, 刊行年も明記する。

例) Zimmerman, B. J., Bonner, S., & Kovach, R. (1996). *Developing self-regulated learners: Beyond achievement to self-efficacy*. American Psychological Association. (ジーマーマン, B. J., ボナー, S., & コーバック, R. 塚野州一・牧野美知子 (訳) (2008). 自己調整学習の指導—学習スキルと自己効力感を高める 北大路書房)

i) 編集書等の特定章を引用する場合, ページ範囲は書籍名の後に入れる。

例) 柴山 直 (1999). 不完全なデータから総合得点を求める方法 柳井晴夫・前川眞一 (編) 大学入試データの解析—理論と応用 (pp. 125-133) 現代数学社

j) 書籍の場合, 国内外とも, 出版社の地名は記載しない (上記 h の例参照)。

k) 著者が 2~20 名の場合, 全著者の名前を並べ, 英語文献の場合は最後の著者の前に “&” を入れる。著者が 21 名以上の場合, 最初の 19 名の著者名の後, 省略記号(…)を入れ, 英語文献の場合も “&” は入れずに, 最後の著者名を追加する。

l) URL を記載する場合は, 特に関覧日を示す必要があるとき以外は, “Retrieved from” や閲覧日は付けず, URL のみを記載する。

m) DOI (digital object identifier) が付されている文献は, 末尾に “<https://doi.org/>” の形式で DOI を含める。

例) 桑原知子 (1986). 人格二面性測定の試み—NEGATIVE 語を加えて 教育心理学研究, 34, 31-38. [https://doi.org/10.5926/jjep1953.34.1\\_31](https://doi.org/10.5926/jjep1953.34.1_31)

n) 本文で引用した文献がすべて引用文献欄にあるか, また, 引用文献欄の文献をすべて本文で引用しているかを確認する。

## 8. 付記

- (1) 研究助成や謝辞等の追記は「付記」という見出しに統一し, 「謝辞」等の他の見出しは用いない。
- (2) 「付記」の中に研究助成や謝辞を含める場合は, 論文が採択された後, 最終稿提出の時点で記載することとし, 投稿時には一切記載しない。

以上